

は是を見て、此御弟子様は、枸杞のあへもの好物と見えたり、あへものは澤山に侍り、汗平はのこし給ふてよし、あへものめし給へ、いざかへてまゐらせんとて、つぼのかはりせんとするを、小僧はいなみて、よろしく候といひて辭退するを、老婆は無理につぼを取て、何御遠慮に及ばぬ事とて、あへもの山の如く盛て出しければ、小僧はまぐく泣出しけり、和尚答て何故に泣ぞといふに、枸杞のあへものはきらひにて候へ共、膳につきたるものは何もかも残さぬやうにたべよと、平日和尚様にまかられ候故、いやなものからさきにたべかゝり候所、今またこのやうによそはれ候といひて泣けるとかや、

白桐

〔大和本草十一〕白桐 此木切レバ早ク長ズ、故ニキリト云、桐ノ類多シ、梧桐ハ青ギリ也、白桐ハツ子ノ桐ナリ、世ニ白桐ヲ多ク用テ器トス、良材ナリ、花淡紫アリ、白キアリ、實ハ桃ニ似テ内ニ薄片多シ、是ヲウフレバ生ズ、時珍云、其材輕虛、色白而有綺文、故俗謂之白桐、女子ノ初生ニ桐ノ子ヲウフレバ、嫁スル時其装具ノ櫃材トナル、子ヲウエ枝ヲサスベシ、早ク長ジャスシ、凡サシ木ハ實ウヘニシカズ、荏桐ハ油ギリ也、海桐ハハリアリ、ハウダラト云、梓モ楸モ皆桐ノ類也、又犬キリト云モノアリ、其木理朴ホノ木ノ如シ、コレ白楊ナリ、是モ器ニ作ルベシ、頼桐ハヒギリ也、花紅ナリ、ケラノ木アリ、實紅ナリ、是皆一類ナリ、

〔和漢三才圖會八十三〕

桐喬木 白桐 黃桐

泡桐

椅桐

榮桐

白花桐

歧利乃木○中略

按桐木作箏及箱櫃、輕而不蛀、以爲上品、性不黏堅、故不堪爲屋柱而已、最易長、有幼女家可栽之、當嫁之頃、則宜作櫃板云云、凡桐子種者宜剪孽早茂長、

〔草木性譜人〕桐

處々に多く植、水遠き地に宜し、春花を先にし、葉を後にす、其花筒をなし、紫色五瓣、蒂茶褐色、細毛有て哆羅絨シヤの如し、其葉濶大にして尺餘に及び、綠色毛茸有て粘滑、莖中虛なり、秋に至り蓓蕾を